

特集 国際交流で輝く未来 Part 5



5月12日から13日にかけて、タイ王国ピッサヌローク県にあるピブンソクラーム・ラチャパット大学で日本語を学ぶ学生3人と教師2人が石岡市を訪問しました。同大学で日本語教師を務める鈴木恭彦^{やすひこ}さんが当市出身であることから、この交流が実現しました。教え子であるタイの生徒たちは、鈴木さんの故郷である石岡市の学生たちとどのように交流を図ったのかをご紹介します。

石岡市立石岡中学校



▲タイの学生とタイダンスのポーズ



▲百人一首に挑戦



▲習字体験

石岡中学校では、2年生がタイダンスの振り付けを教わりました。大きな輪を作ってみんなで曲に合わせて踊ったり、タイダンス特有のジェスチャーを教えてもらい友だち同士でジェスチャーをし合ったりしました。休憩時には一緒に写真を撮るなど積極的に交流する姿が見られました。

その後は、百人一首や習字の体験を通して日本文化に触れたり、生徒から石岡市の紹介を受けました。さまざまな体験を共有し、どの会場も終始、笑顔と活気に溢れていました。初めての体験に戸惑いながらもお互いが楽しく文化交流をすることができました。

茨城県立石岡第二高等学校

石岡二高では、午前には学校行事である伝統文化体験に参加し、午後はタイに関するクイズやタイダンスの披露を行いました。伝統文化体験では石岡三曲協会の皆さまの指導のもと、尺八の演奏体験を行いました。

タイに関するクイズではタイにまつわるイベントや文化、食べ物などを4択形式で出題し、生徒だけでなく先生も一緒になって楽しく参加しました。タイのあいさつは1種類しかないことや、男女で語尾に違いがあることに生徒たちは驚いていました。

タイダンスを披露した後は振り付けの練習をして一緒に踊ったり、体育の授業に参加したりと、高校生とさらなる交流を深めました。



▲タイ語であいさつの練習



▲尺八の演奏体験



▲タイの学生ととても仲良くなりました！